

## 郷土摂津

第72号

平成16年4月1日

## いにしえ通信

発行 摂津市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課

〒566 - 8555 摂津市三島一丁目1 - 1

(06)6383 - 1111 (072)638 - 0007

ホームページアドレス <http://www.city.settsu.osaka.jp/>摂津市の  
石造文化財

はじめに

道標(千里丘6丁目)

第1回

はじめに 摂津市域は、中世以後、多くの寺院が創建されました。ひとつには市域の淀川沿岸では治水事業が多く、古代から自然を克服してきたという厳しい社会状況が挙げられます。加えて庶民仏教的な要素と結びついた信仰も大きな要素として挙げるすることができます。

市域内の各地区に点在する共有墓地には、庶民の墓碑、相撲取りの墓碑、石仏が多く見られます。とくに中世以後の墓碑には、阿弥陀仏や地藏菩薩を掘り込んだものが見られ、庶民信仰としての阿弥陀信仰、地藏信仰が生活と密着した中で遺存してきたとも考えられます。

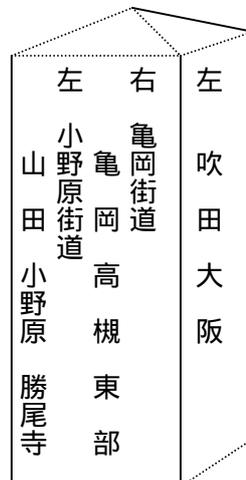
共有墓地以外の路地にも、道標(みちしるべ)、鳥居、灯籠(とうろう)、石仏、板碑(いたひ)、一石五輪塔(いっせきごりんとう)等と多くの石造品が見られます。

道標(千里丘6丁目) 北摂地域にはかなりの街道が通っています。そしてそれらの道に碑によって方向を示す道標が江戸時代中期以後、多く造られました。今回紹介する市場池オアシス広場内に見られる道標が造られた時期は、明治時代末から大正時代のものであろうと考えられます。

石柱の頂部角切高7cm、全高約150cm、一辺の幅24cmとかなり大きいものです。亀岡街道の道案内としては、かなりくわしく街道名と村名を記載されています。明治時代末ごろになって、このような道標が大阪府によって各地に多く建てられました。以前は亀岡街道と小野原街道の分岐点にありましたが、市場池の改修により現在の場所になりました。



千里丘6丁目  
市場池オアシ  
ス広場の中  
にある道標



## 銘文

かなり詳しく街道名と村名を記載しています。正面にあたる部分に街道名を記し、下部に村名を入れています。裏面下部に「大阪府」と記しています。

(参) 摂津郷土史研究会十周年記念誌「みちしるべ」

日本考古学協会委員 辻尾榮市氏 より

## 石碑・顕彰札の紹介

## 摂津市域の歴史をたずねて

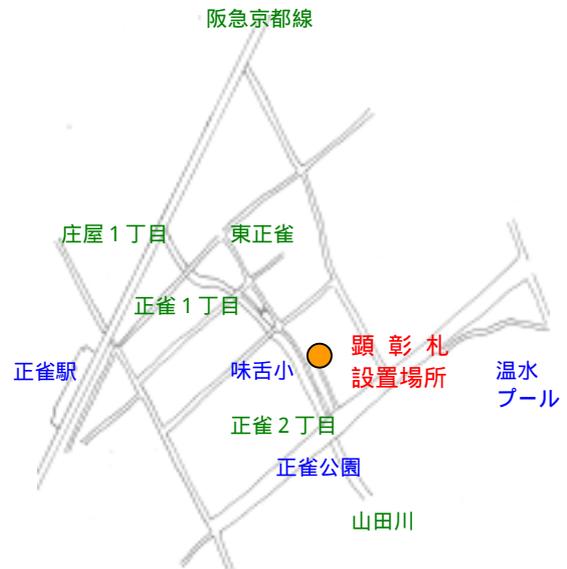
味舌天満宮本殿・摂社八幡神社本殿

【所在地】摂津市三島三丁目9番地先

【設置年度】平成14年度改修

現社殿は、大和柳本城主織田大和守尚長が寛永12年（1635）に造営したものです。

尚長は、織田信長の弟の長益の五男で、味舌（現代の正雀3丁目付近）で生まれました。長益は信長の死後、豊臣秀吉の御伽衆となり、味舌2千石の領主となり、織田家が幕末まで味舌の領主でした。また、茶道有楽流の祖としても有名です。関ヶ原の戦いには、徳川家康側に属し、功により味舌と別に大和国に新恩を加えられ、合わせて3万石の大名に取り立てられました。大坂の陣後に長益は、四男長政に一万石（大和国と味舌）、五男尚長に一万石（大和国）に分け、長益は京都東山建仁寺正伝院で出家して、如庵有楽齋と名乗りました。なお、東京の有楽町は、有楽齋の江戸屋敷があった所だと伝えられています。両殿は、桧皮葺屋根で正面の柱の間が一つしかない一間社流造で、天満宮本殿は正面に千鳥破風をつけ庇に軒唐破風を飾っています。また正面に四つの臺股を置いて、桁を支える意匠は珍しく、江戸時代前期の特徴がみられます。両殿とも平成5年11月24日、大阪府指定有形文化財に指定されています。



味舌天満宮本殿



摂社八幡神社本殿

両殿の欄干（らんかん）の擬宝朱（ぎぼうし）には、全く同じ銘が記されています。

摂津太田郡味舌村 天神社  
織田大和守尚長  
奉行 小関六朗左衛門  
同 蒔田藤兵衛  
寛永十二年乙亥年九月吉祥日

## 第36回 埋もれた摂津市の歴史

### 摂津市と条里制（2）

古代の土地区画制度である条里制の方位が本市域内で北西に33度転換しています。北は境川、西は亀岡街道、南は正雀川に囲まれた範囲で、この条里制の影響を受けたまちなみが現代でも残っています。

